

多自然川づくりの先駆的技術の導入支援

Supporting the introduction of pioneering technologies for Nature-oriented River works

自然環境グループ 研究員 渡邊 彩花
 自然環境グループ グループ長 森 吉尚
 主席研究員 宮本 健也
 自然環境グループ 研究員 内藤 太輔
 水循環・水環境グループ 研究員 後藤 勝洋
 自然環境グループ 次 長 都築 隆禎
 まちづくり・防災グループ 研究員 阿部 充

1. はじめに

平成2年から始まった多自然川づくりの推進に合わせて、(公財)リバーフロント研究所では全国の多自然川づくりへの活動支援を継続的に実施している。本稿は平成30年度の支援活動の内容について報告する。

2. 多自然川づくりサポートセンターとは

「多自然川づくり」においては、「多自然川づくり基本指針」(平成18年10月)や「中小河川に関する河道計画の技術基準」(平成20年3月策定、平成22年8月改訂)を基本としつつも、実際の現場に応じてその適応を考える必要がある。しかし、川づくりの技術や知見の普及・適用、多自然川づくりの具体事例の情報共有と人材育成、市民・NPO等との連携などが課題となっている。

上記課題に対応するため、平成20年2月、(公財)リバーフロント研究所に「多自然川づくりサポートセンター(以下「サポートセンター」という)」を設置した。

サポートセンターの目的は以下のとおりである。

- (1) 技術資料の作成・公表
- (2) 技術の普及・人材育成
- (3) 河川整備の現場からの問い合わせ対応
- (4) 川づくりのプロセスに関するサポート

3. 平成30年度の活動実績

平成30年度は、(2)技術の普及・人材育成に関する問い合わせ6件(意見・相談4件、研修会等への講師派遣依頼2件)、(4)川づくりのプロセスに関する問い合わせ4件(意見・相談4件)の合計10件に対応した(図-1参照)。

サポートセンター設置から10年が経過しており、平成30年度までの活動実績は248件である。

設置当初には、「中小河川に関する河道計画の技術基準」が制定され、「多自然川づくりポイントブックⅢ」が発刊されたことから、自治体や市民団体等が主催する勉強会への講師派遣を中心とした相談依頼が多かったが、近年は年間10件程度で推移している(図-2参照)。

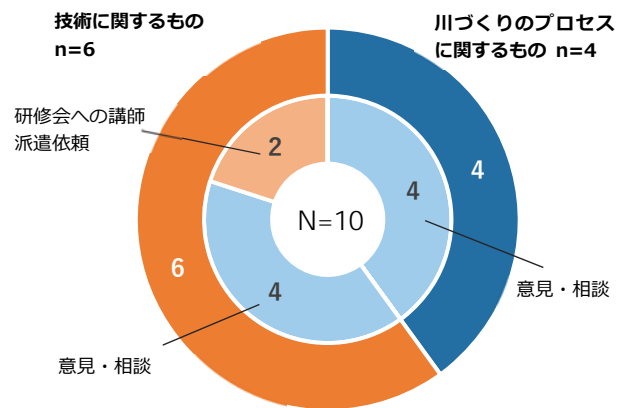
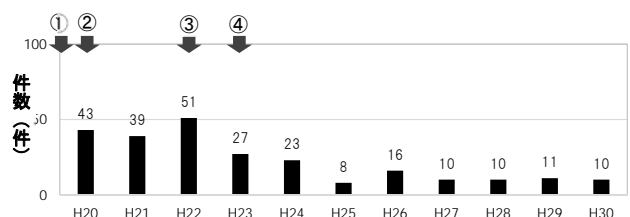


図-1 平成30年度サポートセンターに寄せられた相談・依頼の内訳



- ① 「多自然川づくり基本指針」(H18.10)
- ② 「中小河川技術基準」(H20.3)
- ③ 「中小河川技術基準」(H22.8改訂)
- ④ 「多自然川づくりポイントブックⅢ」の発刊(H23.10)

図-2 サポートセンターに寄せられた相談・依頼件数の推移

以下に、平成 30 年度の主な対応内容を示す。

技術の普及・人材の育成

○新河岸川流域川づくり連絡会への講師派遣

(新河岸川流域川づくり連絡会)

新河岸川流域の行政職員と市民団体が参加している新河岸川流域川づくり連絡会において、「豊かな自然とにぎわいのある川～多自然川づくりとかわまちづくり～」と題して、多自然川づくりのポイントやかわまちづくりに関して講演を行った。また、川づくりに関して参加者との意見交換を実施した。参加者からは、小さな自然再生に関する質問が多く寄せられた（平成 30 年 9 月 26 日）。



写真－1 新河岸川流域川づくり連絡会講演の様子

○新河岸川流域川づくり懇談会への講師派遣(埼玉県)

行政職員と市民団体に対して、「水辺の小さな自然再生のすすめ～コラボで取組む川づくり・人づくり・地域づくり～」と題して、水辺の小さな自然再生についての講演を行った。また、人の集う川づくりについて意見交換を実施した。参加者からはバープ工^{*}に関する質問などが寄せられた（平成 30 年 12 月 9 日）。

^{*}川の上流側に向けて角度をつけた高さの低い水制の一種。運ばれてくる砂を溜めて寄り洲を形成することを目的とした工法。



写真－2 バープ工の設置例

○シンポジウムの講演およびパネリスト候補者の紹介(兵庫県)

市民を対象とした 300 名規模^{**}の多自然川づくり・かわまちづくりに関するシンポジウムの講演者候補及びパネリストの候補者について回答した。

^{**}依頼をうけた時の想定人数

その他、民間企業からの多自然川づくりに関する研修資料の提供依頼等に対応した。

川づくりのプロセスに関するサポート

○淵の再生に関わる相談

かつて水生生物の生息場や子どもたちの遊び場となっていた淵の再生について、アドバイスを行うとともに、有識者を紹介した。

○都市河川における親水施設の整備に関わる相談

都市河川のパラペット構造の特殊堤整備区間において親水施設を検討するにあたり、他の都市河川における具体的な事例についての情報提供やアドバイスを実施した。

その他、市民団体からの多自然川づくりに関する問い合わせ等に対応した。

4. おわりに

平成 29 年 6 月にとりまとめられた「河川法改正 20 年 多自然川づくり推進委員会」による提言『持続性ある実践的多自然川づくりに向けて』を踏まえて、今後益々多自然川づくりに関する様々な取組みが現場で行われると想定される。

多自然川づくりの普及、川づくりの質向上により一層サポートセンターの活動が貢献するためにも、今後はこれまでの経験と蓄積された情報を踏まえて、情報発信に努めていきたい。

<参考文献>

- 1) 国土交通省水管理・国土保全局：多自然川づくり、
<<http://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyoutashizen/>>
- 2) 多自然川づくり研究会：多自然川づくりポイントブックⅢ，日本河川協会，2011